

## キッズ大陸よこはま中川園 初等教育プログラム 言語方針

### ■ キッズ大陸よこはま中川園の教育理念

- ・ 礼儀を重んじ、自分と他者に対する理解と敬意を持った、真の国際人を育成します。
- ・ スポーツを通じて、自ら考え、理解し、探究できる子どもを育てます。
- ・ 思いやりの精神をもち、将来の国際社会の発展と人類の幸福に貢献できる人財の育成を目指します。

### 1. 言語についての方針

教育理念を実現していくため、園児の総合的な発育発達にとって、日々の生活で使う言語と、言語教育は最も重要な教育要素の一つとして位置付けられます。言語は身近な人との関わりの中で自分の意思や意見、感情を伝え、それに相手が応答しその言葉を聞くことを通して次第に育まれていきます。

子どもにとって言語は自分の世界を知り、その外部に関心を向け、探究活動を通じて自身の世界を広げるのに欠かせません。また様々な探究を通じて園児自身の中で得た知識や他者の意見を取り入れ、自分なりにその意味や考えを再構築する過程においても不可欠です。

当園では、保育者との信頼関係のもと安心できる環境の中で子ども一人ひとりの発達状況に応じた言語をベースとした表現力や語彙を無理なく習得できるよう、各プログラムや日々の探究活動など機会を提供していきます。

尚、本言語方針はペダゴジカルリーダーシップチームを中心とした全職員で策定し、一年に一度年度末に全職員で見直しを行いより良い方針へと更新を行います。

### 2. 言語習得のねらい

#### 2-1 言語習得の考え方

国固有の歴史や文化を理解するためには、その国の母語の理解と学習、そして日常における活用が必要不可欠であります。また、母語と母国の文化や歴史を理解することにより、他者や他国の文化、言語についても理解を深めることができます。

当園における第一言語は日本語です。母語である日本語を正しく正確に学ぶことを目的とするとともに、日頃の探究活動や各プログラムの理解を深めるためにも母語である日本語をベースにおいた学習環境を整えます。

全教師が言語の教師です。言語習得（母語）のための専科の時間を設けるのではなく、日々の活動や日常の会話の中で自然と身につけられるよう、全教師は常に個々の発達に適した言語指導を行い発語の促進、語彙の増加、発音の修正、正しい言葉の使い方を促していきます。また、絵本や紙芝居の読み聞かせなどを通して、豊かな想像力を育み発語として生み出されない内なる言語の発達も大切と考えています。言語取得においては、全教師が園生活における全ての場面において責任を持つことを共通認識します。

## 2-2 園児の母語について

当園では園児に対し、日本の保育所保育指針が規定する教育の 5 領域における言葉の発達を日頃の保育に含め、園児の日本語の発達を促進しています。また、日本語以外の言語を母語としている園児に対しても、同様に指導言語は日本語です。しかしながら、その園児たちに家庭での母語の言語教育を勧めると共に、園内でも母語や母国の文化に触れられるような環境づくりに努めていきます。

母語が日本語かどうかに関わらず、家庭での言語発達の支援として保護者とのコミュニケーションの場で年齢に合った絵本やマルチメディアリソース等の提案や、園生活の中での園児の言語発達の状況等を共有し相互に発達を促していきます。

## 2-3 外国語について

真の国際人の育成を理念においている当園においては、様々な国、人種、文化の人とコミュニケーションを積極的に取ろうとする姿勢を大切にしています。園生活の中で毎週 1 回 45 分の外国人教師との英語コミュニケーションの場を設けると共に、それ以外の場でも日常的に関わり合うことのできる環境を整えていきます。こういった外国人教師との関わりを通して、異文化を知り自分との共通点また違う点などを理解した上で互いに尊重しあう姿勢を育みます。

## 2-4 共通理解

全ての園児は…

\*言葉の持つ意味を理解し相手の気持ちを尊重しながら丁寧かつ正確な言葉使いを心がけます。

\*日々の生活の中で気持ちを伝え合いながら会話を楽します。

\*自分の考えを伝えたり、質問をしたり相手の意見を理解したりなど、友人とのディスカッションを通して「話す」事と「聴く」事の姿勢を大切にします。

\*絵本や物語に親しみを持ち、ストーリーを理解します。

\*自分の感じた事、伝えたい事、してほしい事、経験した事を言葉にして素直に相手に伝えます。

\*自分の意見に自信を持って、人前で発表できるようになります。

\*文字を書くことに興味を持ち、簡単な文章を書いてコミュニケーションをとります。

\*沢山の経験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現します。

\*挨拶を行うことの意味を理解し、日常の挨拶を自ら積極的にを行います。

### 3. 言語学習領域

言語は、学習を形成する多くの相互に関連する認知的、情緒的及び社会的要素の中心に位置づけられる。

教師と運営管理者のためのリソースとしての学校における言語方針  
デービット・ニコルソン (1999)

(PYP のつくり方：初等教育プログラムにおける言語より)

#### 3-1 PYP における言語の学習要素

PYP では以下の3つの分野を言語の学習要素と認識しています。

- ・口頭言語（聞くことと話すこと）
- ・視覚言語（見ることと伝えること）
- ・書記言語（読むことと書くこと）

それぞれの学習要素は、受動的側面（意味を受け止め構築する）と発信的側面（意味を創造し伝える）の2つの観点から考察されます。

以下に、本園における園児主体の探究に基づく言語習得の例を示します。年齢に応じて記載していますが、全教師は各園児の言語の習熟度が年齢に必ずしもよるものではないと理解しています。

### 3-2 言語の学習領域

分野	概ね3歳	概ね4歳	概ね5歳
口頭言語 (聞くこと・話すこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に必要な挨拶に应答していく中で徐々に自ら行う</li> <li>・自分や他者の名前、身近な物の名前を覚えやり取りの中で使用する</li> <li>・短い物語を聞き内容を理解し、簡単な感想を伝える</li> <li>・詩や物語のフレーズなどを覚え唱和する</li> <li>・経験したこと感じたことを他者に伝えたり聞いて共感したりする</li> <li>・簡単な質問を理解し答えたり行動で表したりする</li> <li>・保育者の話を聞き行動に移す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に必要な挨拶を状況に応じて交し合う</li> <li>・言葉やジェスチャーなどを交えて自分の考えている事を発表することができる</li> <li>・物語の内容を理解し簡単に内容を説明できる</li> <li>・詩や物語のフレーズを覚え暗唱することを楽しむ</li> <li>・経験したり感じたりしたことを他者と伝え合いながら会話を楽しむ</li> <li>・話の内容を理解し、先を見通しながら行動に移せる</li> <li>・題材に対して数人で簡単な言葉のやり取りができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見を聞き自分の中で理解をした上で自身の意見を伝える</li> <li>・目的や意見を含めた文章を作り伝える</li> <li>・物語を聞きながら自身の生活体験とつなげたりイメージを膨らませたりして発展させる</li> <li>・物語や会話の内容を理解し他者に説明できる</li> <li>・会話を通して他者を理解したり気持ちに共感したりして人間関係を築く</li> <li>・経験したことや想像したことなどを簡単な筋道をたてて話をする</li> <li>・題材に対して数人でやり取りして答えを導き出せる</li> </ul>
視覚言語 (見ること・発表すること)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色や形、簡単なマークを知り生活の中で使用する</li> <li>・ボディーランゲージを使ってコミュニケーションを取る</li> <li>・絵や写真を見て知っている人や物の名前と結びつけられる</li> <li>・絵本や図鑑の絵や写真を通して内容を読み取る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な絵や写真、マークなどから共通点を見つけ出したりそれらを使用したりする</li> <li>・指差しをしたり大きさを両手で表したりなどボディーランゲージを使用してよりコミュニケーションをスムーズに行う</li> <li>・絵や写真などを見ながら自分の感じた事や経験した事を説明する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なマークや標識を理解し行動に移したり使用したりする</li> <li>・自分の感情や経験したことを絵や写真、図表などを通じて発表する</li> <li>・ポスターや挿絵、広告等の視覚メッセージを読み取り自分の感情や経験に照らし合わせられる</li> <li>・絵や写真、マークなどとそれに合う文字をマッチングさせることができる</li> </ul>

<p>書記言語 (読むこと・書くこと)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を聞くことを楽しむ</li> <li>・絵本の読み聞かせを繰り返し聞き通して絵本の仕組みを理解する</li> <li>・文字に興味を示し形や読み方を知る</li> <li>・自分の名前や身近な物の名前を文字と照らし合わせながら覚える</li> <li>・文字の形に興味を持ち共通点や違いに気づく</li> <li>・自分の名前の形を真似て書こうとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や図鑑等の文字に興味を示し知っている文字を追って読む</li> <li>・文字を書くことがコミュニケーションの手段であることに徐々に気づき、書き方を覚える</li> <li>・文字の形と読み方とを結びつけながら覚える</li> <li>・文字やテキストに興味を示し質問したり遊びの中に取り入れたりする</li> <li>・文字や文章と絵、写真マーク図表などの違いに気づく</li> <li>・文字の正しい形や書き方を理解し習得する</li> <li>・自分の名前を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字が組み合わさることで意味がもたらされると気づき理解しながら読む</li> <li>・自分の気持ちや経験したことを簡単な文章で表現する</li> <li>・絵や図表に簡単な説明をつける</li> <li>・身近に掲示物を読んで意味を理解する</li> <li>・簡単な文章を読み内容を理解して他者に伝える</li> <li>・筆記の際の規則を知り守りながら文章を構成する</li> <li>・自分の気持ちや意味を込めた文章が相手にメッセージを伝えることに気づく</li> </ul>
-----------------------------	--	---	--

### 3-3 言語の評価

言語の評価は…

担任を中心とした全ての教師が、日々、探究活動中、評価（形成、総括、自己、児童間）の活動中、行事、面談、発表などの時に 子どもの声や様子をメモや写真、動画で残した物や、子どもの作品、記録ノートなどを通して行います。そして、ポートフォリオ、スクールレポート、面談等で園児や保護者に共有します。

## 4. 参考文献

本ポリシーの作成にあたり、以下の学校の資料を参考にいたしました。

- サニーサイドインターナショナルスクール
- 町田こぼと幼稚園

また一部を以下の文献から引用しています。

- 非営利教育財団国際バカロレア機構（2016）『PYP のつくり方：初等教育のための国際教育カリキュラムの枠組み』

- Making the PYP Happen: A Curriculum Framework for International Primary Education. Cardiff: International Baccalaureate, Dec. 2009. PDF.